

アカガイ養殖への取り組み ～完全養殖に向けて歩む第一歩～

松岩漁協浅海漁業研究会

小松 茂

1. 地域の概要

私達の住む気仙沼市は宮城県北東部に位置し、湾口に「大島」を抱く気仙沼湾を擁し、波静かな天然の良港として特定第3種漁港に指定されるなど、古くから遠洋・沖合漁業の基地として、また、養殖業を主とする沿岸漁業も盛んな全国屈指の水産都市として発展してきた。(図-1)

2. 漁業の概要

私達の所属する松岩漁業協同組合は、気仙沼湾西側海岸のほぼ中央に位置し、組合員238名(正162名、准76名)で、主にワカメ、コンブ、ホタテガイ等の養殖業を営んでいる。平成13年度の販売事業の取り扱い高は135億円となっている。(図-2、3)

3. 研究グループの組織と運営

私達の研究会は昭和27年5月に「青年研究会」として発足し、平成11年に「浅海漁業研究会」と改称して、現在会長1名、合計16名で活動している。

主な活動内容はアワビやウニなどの磯根資源の管理、他の研究グループとの情報交換を実施するなど、地域漁業の振興のため各会員とも積極的に各事業に取り組んでおり、近年は、今回報告するアカガイの養殖試験に力を入れている。

4. 研究・実践活動課題選定の動機

当地区においても輸入水産物の増加や産地間競争の激化等により、生産物の価格が低下するなど厳しい経営を強いられている。このことから、以前、漁閑期にあたる夏場の養殖物としてトリガイの養殖を試みた。トリガイ養殖は一時軌道に乗ったように思えたが、他産地での漁獲量増加による価格の低下に加え、種苗の確保が困難で断念せざるを得ない状況となり、新たな養殖種目の検討が必要となっていた。しかし、当地では漁場が狭いことなど不利な条件が多いことから、地域が持つ内湾性という「地の利」を生かすとともに過去に出荷までこぎつけた経験を持つ「夏季に出荷可能な貝類」の養殖に取り組むべく作物の検討を行ってきた。このような中、平成10年度、県の水産研究開発センターがアカガイの種苗生産技術開発試験の結果として生産された種苗の養殖の可能性を検討するため当漁協が選ばれ、それを契機にアカガイ養殖に力を入れるようになった。

5. 研究・実践活動状況及び成果

【中間育成、稚貝の成長・生育状況調査】1年目は中間育成時の水深別の成長比較試験を行った。試験実施場所は、気仙沼湾中央部に位置する松岩地区地先の内湾とし、アワビ中間育成用に利用する木製筏に垂下する方法で実施した。なお、地先の周年の水温は図-4に示したとおりである。平成10年10月8日に約1.5mmサイズの稚貝を搬入して目合いの細かいポリエチレン製袋に収容して水深1、3、5mの間に垂下し、水深別の成長比較を行

利益となり、漁業経営の改善に役立つものと考えられた。

6. 波及効果

この取り組みにより、これまでは漁閑期であった時期に収入が得られ漁家経営の向上が図られるとともに、新たな養殖種目であるアカガイを地域の特産物として名声を高め、ブランド化を図り地域の活性化に結びつけられるものと考えられている。また、当研究会の会員の中には既に他の養殖種目（ワカメ）を2名1組で協業している者も含まれており、会員や組合員も「協業」について目覚めてきているので、アカガイ養殖においては参加者全員による協業体として活動して行くこととしている。

来る4月1日に活動母体となる漁協合併(4漁協)を控えており、この取り組みの成果によって、他漁協青年団体ともこれまで以上に結束を強めることによってワカメやコンブなど他の既存の養殖分野にも協業による経営改善の考え方が波及するものと期待している。

7. 今後の課題や計画と問題点

今後の課題として、第一に種苗の安定確保が挙げられ、協業体としての採算性を検討するためにも、12名で計12万個程度の出荷を目標に、現在試験的に採卵にチャレンジしているところである。さらに、成長の良い高温時に成長を促進して早期出荷につなげるため、親貝の仕立て等も含めた出荷時期に併せた採苗時期の検討も行うこととしている。また、作業の効率性や衛生管理及び漁場環境に合わせた適切な収容密度についても引き続き検討し、消費動向も把握しながらアカガイ養殖の地元定着化を図って行くこととしている。

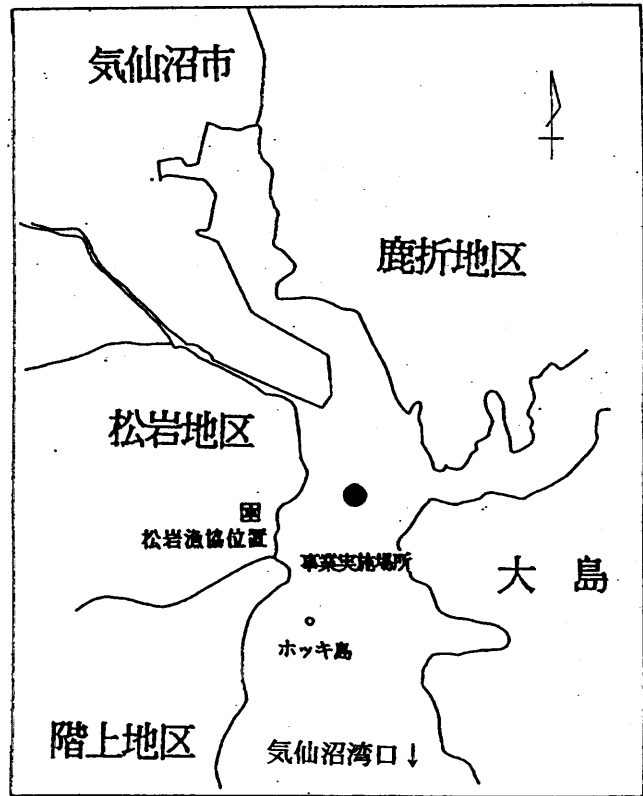


図-1 松岩漁協位置及び実施場所



作業風景

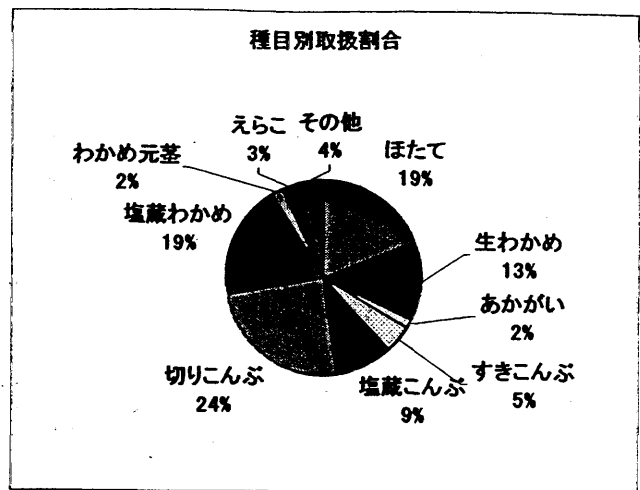
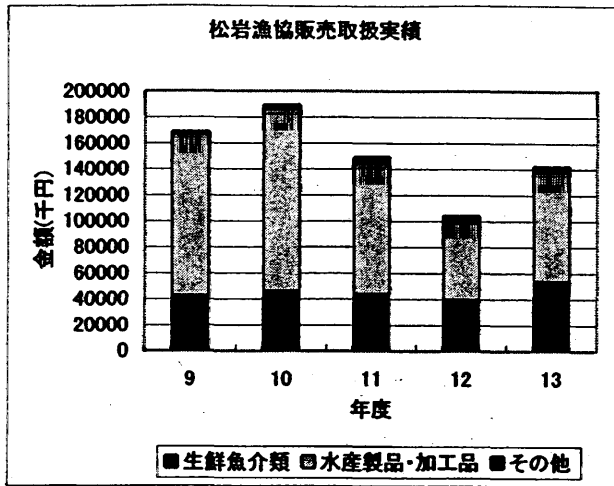


図-2 平成13年度松岩漁協販売取扱実績

図-3 平成13年度種目別取扱状況

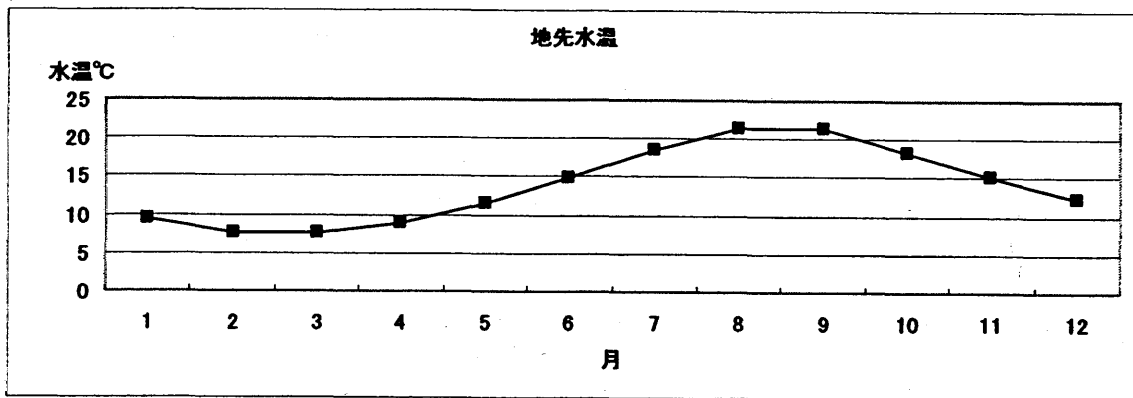


図-4 過去10カ年の松岩地区の水温の周年変化

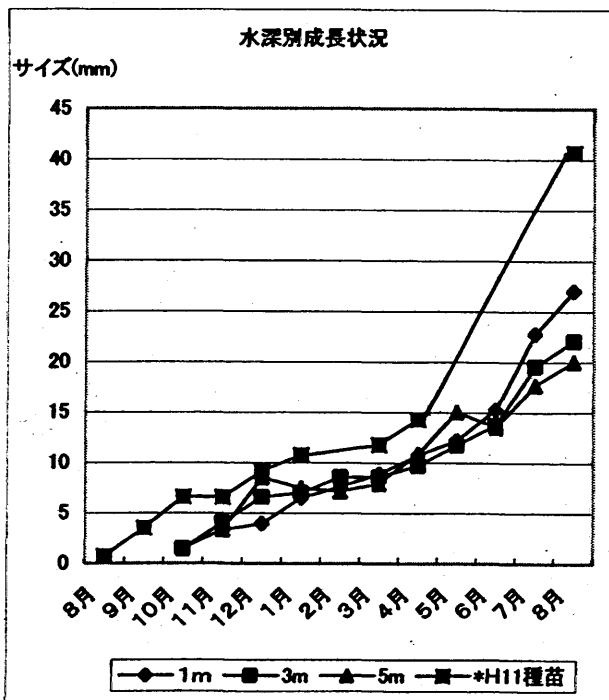


図-5 水深別成長状況

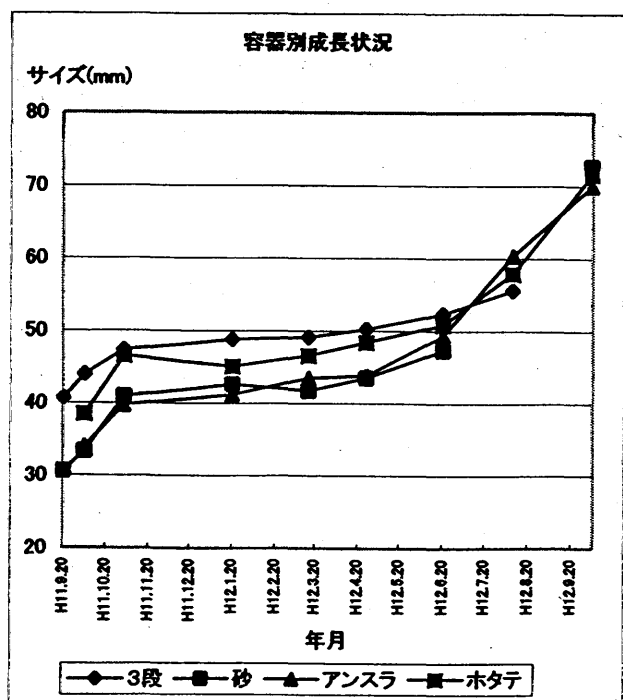


図-6 容器別成長状況

(実施状況写真)



タライ式アカガイ養殖（殻長4cm～6cmの種苗 11月）

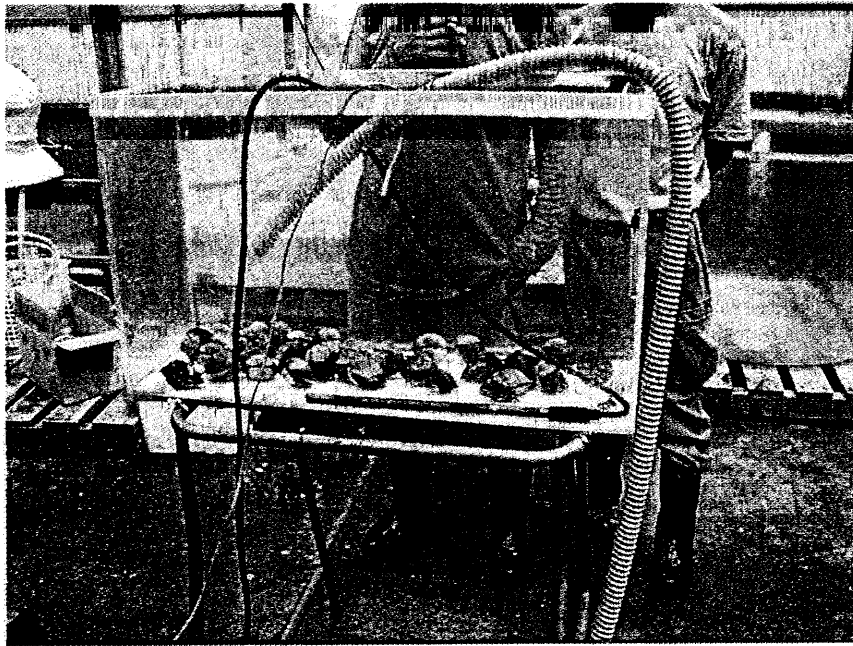
*タライ式貝類養殖は本田水研の特許であり、使用許諾を得ている。



分散作業 12月
タライ、ネット
に入れ替え

出荷を迎えた
アカガイ 9月





採卵試験（8月 松岩・前浜）加温による産卵促進